



『寄り道』（卒業式式辞）

校長 高汐 康浩

第23号
令和7年3月19日
府中市立
府中第八中学校



〈在籍生徒数〉 一学年215名、二学年247名、三学年261名
 全校生徒数723名
 〈学校住所・電話番号〉
 〒183-0035 府中市四谷一丁目二八二七
 電話 ○四二(三六四)一八八一
 ★卒業式予行を参観された四谷小の先生方から「生徒の皆さんの合唱が最高！」という感想をいただいています。

「その距離を……」。「歌詞の掲載の許可をいただいていますので内容を省きます」……のままに」

このフレーズにピンときた人がきついていると思います。この言葉は「365日の紙飛行機」という曲の一部です。今から十年位前のNHK連続テレビ小説『あさが来た』の主題歌として制作されたものです。AKB48の楽曲です。

初めてこの曲に出会ったときに、このフレーズが私の心のどこかにぴったりとはまった感じがしました。私の友人や知り合いからは、よく「高汐は放浪癖（ほうろうへき）（目的もなくふらふらと出歩く癖）がある」といわれてきました。ときには、押揃（おそろ）へやゆ（ゆる）している（からかわれる）ように聞こえることもありましたが、でもまったくおかまいなしでした。その通りですから。私は目標に向かうときにはゴールに向かってまっしぐらではありません。たくさん寄り道をします。今、思えば、この癖がついたのは小学生の頃ではなかったかと考えます。学校の先生からは、「寄り道をしないでまっすぐお家に帰りなさい」と言われていたのですが、学校から家までの約2キロメートルあった通学路にはたくさん誘惑がありました。当時、府中にはキャベツ畑が広がっていました。5月にはキャベツ畑に大量のオムシが発生します。そのオムシを見たり触ったりするのが大好きな私はいつまでもキャベツ畑で道草をくっていました。ときには、肥溜めに落ちこちてしまったり身体じゅううんこまみれになって帰ってこっぴどく叱られたことがあります。えっ!? なんてうんこまみれなの? と思ってしまいますね。私が小学生だった昭和四十年代頃までは、畑の肥料として人間のうんこやおしっこを使っています。

た。そのうんこやおしっこをためておく池が畑にはあり、それを肥溜めといっていたのです。おめでたい日に、くっさい話をしてしまい申し訳ありません。話を戻しましょう。寄り道は私にとっては発見のたくさんある本場に学びの場だったのです。

卒業生の皆さんは、レアなケースではありますが卒業間際まで叱られたり生活面の指導をされたりしたことがたくさんありました。でも、さまざまな場面で多くの一、二年生の手本となる取組をしてきました。例えば、二期の合唱コンクール、一、二年生は三年生の合唱に圧倒されつつも憧れの気持ちをもっていました。十一月の五十年記念式典での府中市の歌、校歌、そして、会場内を暖かく包んだ「見上げてごらん夜の星を」の合唱のハーモニーは参列した多くの方の心を大きく揺さぶりました。そして、素晴らしい式典にしました。数えきれないほどのたくさんの方から「素晴らしい三年生」、「感動して涙が止まらなかった」などの声が届いていました。委員会活動でもそうです。一つ例を挙げるならば、三年生の保健委員の皆さんは事故防止のためにろうかに行方を区分する線を引きました。自分たちで考えて実行したのです。この取組は日本全国の学校や教育委員会の先生方に紹介され、文部科学省の先生から大変高く評価されたのです。皆さんは、肝心なときに自分の力をしっかりと発揮できる人たちであると確信しています。これらの力を発揮できるようにになったのは、合唱や委員会活動を学ぶ場だけでなく、寄り道をしながら、いろいろな場面でいろいろなことを学んだ結果ではないのでしょうか。

中学校を卒業していく皆さんには、進学、就職など人生の大きな節目があります。そんなときに大切なことが「自分がどのように考えているのか」ということです。冒頭のフレーズをもう一度読みます。

【裏面に続く】

「その距離を……」[歌詞の掲載の許可をいただいていませんので内容を省きます]……のままだに」

ゴールばかりに拘ることなく、自分の「心のままだに」たくさんの方の道をしながらかくさんの経験を積み、一つ一つのことをじっくりと考え、納得しながら、たくさんの方の知識や技を自分のものにしてほしいのです。卒業間際まで叱られたことも寄り道の一つと考えればそれは貴重な学びの場なのです。皆さんには、これから進級、進学や就職など人生の大きな節目が訪れます。そのときは、ぜひ、このことを思い出してもらえればと思います。

〔中略〕

保護者の皆様、お子様が立派に中学校を卒業されますことを心よりお祝い申し上げます。中学校卒業という節目を迎えられ、これまでのご苦労も大きな喜びに変わっていることと存じます。この三年間、本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただきましたことを、全教職員とともに感謝いたしております。これからも、お子様が健やかにたくましく成長されますようお祈り申し上げます。

最後になってしま大変恐縮しているところですが、府中市福祉保健部地域福祉推進課長補佐 土橋 優介 様をはじめとして、ご来賓の皆様にはご多用の中、ご臨席を賜り心よりお礼申し上げます。卒業生に対するこれまでのご厚情と本校教育活動へのご支援に対しまして、今一度深く感謝申し上げます。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんの輝ける未来に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。



お知らせ

思春期は、心身ともに大きく成長する時期だからこそ、悩みをもつことがあります。悩みを抱えてしまつて困っているときに、相談できる相談窓口はたくさんありますので、『安心♡♡』してください。リーフレット「不安や悩みがあるときは…一人で悩まず、相談しよう」「相談するとうつなるの？」「保護者向け相談窓口一覧」と「TOKYOほっとメッセージチャンネル」を紹介いたしますので、活用してください。下の二次元コードから、またはURLをクリックすることでアクセスできます。



<https://www.fuchu-tokyo.ed.jp/fuchu08c/02gaiyou/15108533456459d8e4a01a420230509142348.html>

<https://ijime.metro.tokyo.lg.jp/message/>

活躍する八中生

東日本大震災十四年の日の
仙台市と南三陸町訪問レポート

「自然は未知数」この言葉は、今回の訪問で大変お世話になった南三陸3リーミュージアム顧問の高橋一清さんのお話で特に印象に残ったものだ。高橋さんは震災当時、町の総務課長として防災に取り組んでいた。町民へのチリ地震の津波を教訓とした訓練などの取組は町民の「安心」を保障してきたが、それは決して「安全」を保障するものでなかったのだ。自然災害は「想定外」を大前提として行政には何ができ、そして、何を発信するべきなのかを考え続けたそうだ。震災時、中学生だった方々の壮絶な体験のお話しに衝撃を感じながら、これからの防災教育、安全教育についてじっくり考えることのできた二日間だった。南三陸町長の佐藤 仁さんにも、さまざまな調整をいただき大変貴重な経験ができた。(高汐 康浩)



献花@仙台市



南三陸町防災庁舎跡

〔敬称略〕

- ★全国中学生人権作文コンテスト東京都大会★
- 作文委員会賞 三浦 眞子
- 令和六年度 第六十四回 書き初め祇上 一年生の部 準特選 深澤 しより
- 令和六年度 府中市一年生大会 バスケットボール部
- 男子 敢闘賞
- 女子 浅間中との合同チームで優勝
- 優秀選手賞 村井 大和
- ★吹奏楽部★
- 定期演奏会 3月20日(木・祝)
- 会場…体育館 開場…14時30分 開演…15時

